

**地域密着型通所介護「デイサービスどっこいしょ」  
運営推進会議 議事録 【平成30年度 第1回】**

日時	平成30年7月20日(金) 14:00~15:00			場所	デイサービスどっこいしょ		
利用者	A様	地域代表	C様	市職員	内山 美子様	通所介護	北裏 智恵子
家族	B様	地域包括	武永 慶志様	通所介護	榎本 隆平	通所介護	榎本 敦子
<b>■議題</b>				<b>■議事内容</b>			
<p>1. 活動状況報告</p> <p>○登録者数(市内・市外、合計)</p> <p>○平均介護度</p> <p>○活動内容と事例紹介</p> <p>2. 活動状況の評価</p> <p>3. 出席者からの要望・助言</p>				<p>1.</p> <p>○登録者数 25名(市内16名、市外9名)</p> <p>○平均介護度 2.17</p> <p>○活動内容と事例の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体操(軽体操、スリーエー体操、リズム体操)</li> <li>・趣味活動(おやつ作り、外出、菜園、手芸)</li> <li>・日常的活動(調理、盛り付け、食器拭き他)</li> <li>・ボランティアの受け入れ、家族会の開催他</li> </ul> <p>*台所が居場所になったケース</p> <p>*生活歴から不安が減ったケース →別紙参照</p> <p>○地域とのつながりについて</p> <p>送迎時や散歩、買い物、外出時の挨拶や地域の催し(ふれあいカフェ等)への参加を通じて地域の方の周知し、気軽に見学やご相談頂けるよう活動していきたい。</p> <p>2. 3.</p> <p>武永様：スタッフの離職率の少なさはスタッフだけではなく、利用者にとっても居心地の良い場所となっていると思います。小さいデイならではの活動やそれを生かした活動を通して、一人一人に寄り添うことの出来るデイとして更に活動して下さい。</p> <p>内山様：地域の方が自宅以外の居場所を見つけて頂くためにも、地域の方との交流の機会を通して居場所を必要な方が利用出来るようになれば良いと思います。</p> <p>地域様：自治会は要支援や要介護以前の方が引きこもりの状態を防ぐ役割を持っていると思う。デイサービス等の地域の施設とも連携し、協力していければ良いと思う。</p> <p>家族様：自分の体調や精神的安定の為にも、このような場所があり助かっています。</p>			

デイサービスどっこいしょ  
平成 30 年 7 月 20 日（金）

別紙 （運営推進会議内で発表）

はじめに

平成 22 年に定員 11 名で開所し、今年で 9 年目となりました。利用者数が少なく、利用者様同士が顔馴染みになりやすく、スタッフもこの 8 年余りで離職者が 3 名と少なく、利用者様やご家族様にとっても、顔触れが変わらないスタッフで安心感を持って頂けているのではと思っております。

どっこいしょではスタッフが主導にならず、利用者様の自発性や積極性を大切にし、お知恵や体力を拝借し、それぞれデイでの役割や活動を通して自信をもって頂きたいと思っております。その人らしさを大切に、お一人お一人のお気持ちに添えるようなケアを心がけ、努めさせて頂いております。

事例紹介

- 1、ご自宅では包丁や火を使うことを止められてしまった方がご利用されておられました。デイでスタッフと一緒にエプロンを着け、手洗い、届いた食材の皮むきや食材を切る下準備、フライパンを使って炒めたり、また使った調理器具や食器を洗うこと、盛り付けなどを一緒に頂きました。ご本人様の「やりたい」というお気持ちと、ご家族様の「一人では危ない、難しい」というお気持ちに添い、スタッフと台所に立ち作業される姿は、とても生き生きとされておられました。この方にとっては、デイの台所は大切な居場所であり、役割であったように感じております。
- 2、認知症が進み、帰宅願望も強く、何をどうしたら良いのかといつも不安を抱えている方がおられました。デイでも不安の訴えが強く、体操やレクリエーションへの参加が難しい状況が増えておられました。その方の生命保険のお仕事をされていた経歴、そろばんが得意であったとご家族様からお話を伺い、その生活歴から数字に慣れているのではと考え、ペットボトルのキャップに数字を書き、マス目に置いて頂くことをお願い致しました。「これならやるよ」と慣れた数字合わせを引き受けて下さり、「これはここだよな」などと、自信も持たれて、その間は集中され、短時間ではありましたが、不安から離れた時間を過ごして頂けたと感じております。

このように、その人を知ること、ご家族様から以前のお仕事の内容や興味のあることを傾聴することで、その人の居場所や役割、安心して過ごせる時間を一緒にすることができたと感じております。

また、スタッフの顔触れが変わらず情報が共有しやすかった環境、管理者、生活相談員、介護職員、看護師と全てのスタッフが送迎に出ることやご家族様同士がお気持ちを吐露できる家族会の開催などで、ご家族様と問題を共有し、解決に向かう手段を探ることができたと感じております。